

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究報告書

HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査と
その対応方法に関する研究

研究分担者 新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科 木村 慎二

研究要旨

目的：HPV ワクチン接種後に生じる種々の症状についての新潟県内の調査とその対応方法を明らかにすることである。

方法：新潟県では新潟大学医歯学総合病院の地域連携室が窓口になり、他院からの相談をまず、ファックスで受け付ける。その後、産婦人科の担当医が症状により、受診科を振り分ける。痛みが主な症状の際は、リハビリテーション科医師、その他の症状は小児科、産婦人科、麻酔科で対応する。また、心理社会的要因が疑われる場合は小児心理専門医、麻酔科、精神科等で検討するシステムを用いて、1年間の受診者およびその症状等を調査する。

結果：新潟県では2023年度1年間でHPV ワクチン接種後の種々の症状の新潟大学医歯学総合病院への受診者は1名、電話相談3名のみで、しかも全て軽症であった。

結論：本ワクチン接種による種々の症状への対応が新潟県では適切に行われていたと考えられる。

A. 研究目的

HPV ワクチン接種後に生じる種々の症状についての新潟県内の調査とその対応方法を明らかにすることである。

(倫理面への配慮)

本研究については、愛知医科大学医学部倫理委員会（承認番号：C2023-0018）を通して行っている。

B. 研究方法

以下の図1に沿った診療システムに沿って、2023年度に症状が出た患者の診療状況を調査した。

C. 研究結果

図1の診療システムに沿って、受診患者の総数は1名のみであった。14歳の女性でワクチンの接種回数は2回、自律神経症状等(頭痛、倦怠感、クラクラする感じ)はあったが、疼痛や運動障害はなかった。ワクチン接種から1か月以内の症状であり、接種直後の痛みはあったものの、急性ストレス反応(動悸、過呼吸など)や血管迷走神経反射(失神など)などはなかった。他覚所見や検査でも異常がなかった。心理社会的リスクはなし、接種翌日から頭痛、倦怠感、クラクラする感じがあり、1週間以上継続するため、新潟大学医歯学総合病院の小児科外来を受診した。症状自体は徐々に軽減しており、受診時にはほぼ消失していた。ワクチン接種後の副反応としての頭痛が徐々に軽減してきている経過であると判断し、症状もほぼ消失していたため、経

新潟県におけるHPVワクチンの副反応疑い症状診療システム

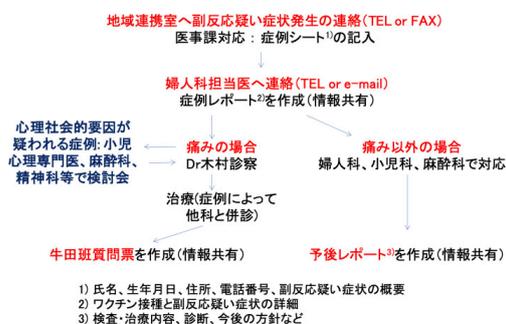


図1 新潟県におけるHPV ワクチンの副反応疑い症状診療システム

過観察の方針となり、結果として症状も軽快した。他、14歳1名、16歳1名、19歳1名の患者に対して、電話相談のみを行い、病院受診までには至らなかった。

D. 考察

かつて、HPV ワクチンの接種後に生じる種々の症状の中で、痛みに関しては重度になり、それによって廃用症候群となり、車椅子生活になってしまった症例等も報告された。2022年4月からの厚労省の積極的推奨が始まってからは、各都道府県を中心に図2のようなフローを作成し、患者のたらい回しや患者および家族への診療の適切なシステムを普及したことで、痛みを含めて副反応の報告は極めて少なくなり、新潟県でも2023年度1年間で大学病院への受診者1名、電話相談3名のみで、しかも全て軽症であった。

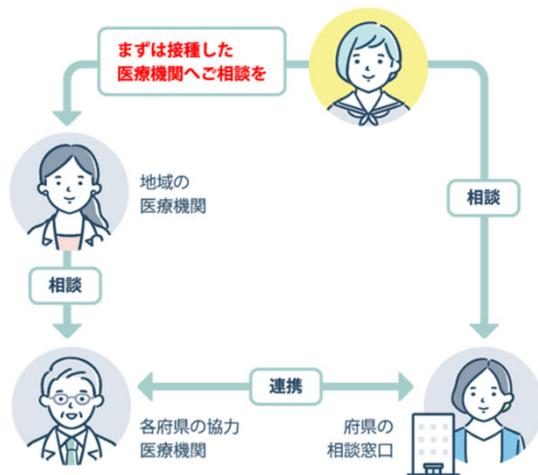


図2 HPV ワクチン接種後の種々の症状の相談フロー

E. 結論

新潟県では1年間でHPV ワクチン接種後の種々の症状のため、新潟大学医歯学総合病院への受診者は1名、電話相談は3名のみで、しかも全て軽症であり、本ワクチン接種による種々の症状への対応が適切に行われていたと考えられる。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 岩崎円、木村慎二・運動器慢性疼痛に対するリハビリテーション—いきいきリハビリノートを用いた認知行動療法にもとづく運動促進法を含めて—・Loco Cure・(2023)・9巻2号・40-47
- 2) 田村友典、木村慎二、小黒孝夫・慢性疼痛に対するリハビリテーション医療—慢性疼痛診療ガイドラインのエビデンスに基づいて—・The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine・(2023)・60号・518-524
- 3) 張替徹、木村慎二、横田樹也・新潟市内における慢性期病床の入院受け入れ条件に関する調査・新潟市医師会報・(2023)・627号・2-8
- 4) 木村慎二・身体症状症を含む難治性慢性疼痛に対する治療戦略—心理療法併用運動療法のコツ、治療の限界—・日本運動器疼痛学会誌・(2023)・15巻3号・155-161
- 5) 岩崎円、萑澤紀文、穂苅諭、大嶋康義、高橋敦宣、永井明日香、上路拓美、菊地利明、木村慎二・Platypnea-orthodeoxia症候群の食道胃接合部癌症例に対する周術期リハビリテーション・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌・(2024)・32巻2号・1-6

2. 学会発表

- 1) 加藤諄一、谷藤理、栗原豊明、上路拓美、木村慎二・人工膝関節再置換術後に膝関節脱臼を呈した coxitis knee 症例に対するリハビリテーション経験・第60回日本リハビリテーション医学会学術集会・2023.6・福岡市
- 2) 木村慎二・運動器慢性疼痛に対するリハビリテーション医療の重要性とセルフマネジメントツール開発・第60回日本リハビリテーション医学会学術集会(シンポジウム)・2023.7・福岡市
- 3) 安藤千晶、木村慎二、近藤悦子、大

鶴直史・維持期の慢性腰痛症患者に
対するスマートフォン版いきいきリ
ハビリノートを用いたテレナーシ
ングの経験・第16回日本運動器疼痛学
会・2023.11・富山市

- 4) 田村友典、小黒孝夫、木村慎二、矢
尻洋一・当院におけるいきいきリハ
ビリノートを用いた運動促進法の診
療実績－理学療法士としての役割
－・第16回日本運動器疼痛学会・
2023.11・富山市
- 5) 北村拓也、木村慎二、大鶴直史、細
井昌子、柴伸昌、柳澤義和、中島陽
平、御手洗七海、田村友典・慢性疼
痛患者に対するいきいきリハビリノ
ートを用いた認知行動療法に基づく
運動促進法の効果検証（第2報）・第
16回日本運動器疼痛学会・2023.11・
富山市
- 6) 田村友典、木村慎二、矢尻洋一、小
黒孝夫・難治性慢性疼痛に対する認
知行動療法に基づく運動促進法・第
16回日本運動器疼痛学会(シンポジ
ウム)・2023.11・富山市
- 7) 木村慎二・慢性疼痛に対するリハビ
リテーション医療－認知行動療法の
追加効果も含めて－・第7回日本リ
ハビリテーション医学会秋季学術集
会・2023.11・宮崎市
- 8) 木村慎二・「国立大学病院での診療運
営の工夫」－新潟大学医歯学総合病
院における診療運営の工夫－・令和5
年度国立大学病院リハビリテーショ
ン部門代表者会議(シンポジウム)・
2023.12・東京都文京区

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし